

# 1

## 【主のいやしの川が】

C CM7 C6 C7 Dm Dm7 Dm7 G  
 主のいやしの川が 世界に流れゆく  
 C CM7 C6 C7 Dm7 G C  
 その流れは豊か 泳げるほどに

主のいやしの川が 世界に流れゆく  
 その流れはいのち すべてが生きる

F G Em Am  
 すべてが生きる すべてが生きる  
 Dm7 G C C7

この川の流れゆくところ

F G Em Am  
 すべてが生きる すべてが生きる  
 Dm7 G7 C

この川の流れゆくところ

## 新聖歌 355 番「主と共に歩む」

1. 主がわたしの手を 取って下さいます  
 どうして怖がったり 逃げたりするでしょう  
 ※  
 優しい主の手に 全てを任せて  
 旅ができるとは 何なんたる恵みでしょう
2. ある時は雨で ある時は風で  
 困難はするけれど 何なんとも思いません
3. いつまで歩くか どこまで行くのか  
 主がその御旨を 成し給たもうまます

## 主を待ち望む者は

主を待ち望む者は新たに 力を受けてのぼる  
 走り疲れず歩みて倦まず 鶯のようにのぼる

# 5

## 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り
5. 日本と世界の平和を願って...

- ・大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ・瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ・教会が成長しますように!

- ① 信徒の皆様が恵まれた信仰生活を送り、キリストの似姿に変えられる成熟と祝福に与りますように
- ② 新しい方が来られますように、未信者の方がイエス様を信じ、救われ、洗礼に導かれますように
- ③ 地域の方々に良い証がたてられ、神の国が広がられますように。
- ④ 瀬戸市・愛知県・日本全国・世界宣教のために用いられる教会となりますように。

主の約束をひたすら待つだけの祈り。私たちはそのような祈りをささげたことがあったでしょうか。祈る言葉も分からない中でひたむきに神を信頼する祈り。祈りながら、その実「祈りの結果」を求める自分に振り回されてはいなかったでしょうか。(中略)しかし祈りは結果ではありません。祈りとは神を信頼させていただける過程そのものなのです。

日キ教団 軽井沢教会・松村かおり先生



## 祈りの小径(こみち)

Number:061 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せとのの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899  
 牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com

## 2 今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ルカによる福音書24章44～53節

44 それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。45 そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて 46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。48 あなたがたは、これらの事の証人である。49 見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。

50 それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。51 祝福しておられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげられた。〕 52 彼らは〔イエスを拝し、〕非常な喜びをもってエルサレムに帰り、 53 絶えず宮にいて、神をほめたたえていた。

使徒行伝1章1～5節

1 テオピロよ、わたしは先に第一巻を著わして、イエスが行い、また教えはじめてから、 2 お選びになった使徒たちに、聖霊によって命じたのち、天に上げられた日までのことを、ことごとくしるした。3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。

## 3 黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

**熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え、望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。ローマ人への手紙12章11～12節**

ペンテコステの聖霊様の炎を受けたもうひとりの人物、使徒パウロは、教会を開拓し、養い、育てるエキスパートでした。彼はキリスト者が「熱心」で「燃えている」ことを願いました。内なる炎を、共に受け取りましょう。Amen

## 4 みことばの解説



**あなたの栄光を示してください！**  
Show us Your Glory! 出エジプト33の18

イエス様が復活されて40日目に昇天されてから、ペンテコステ(五旬節)を前に、弟子たちは10日間の待ち望みの祈りをしました。もちろん、10日目に聖霊様がくだることを知っていたわけではありません。ただイエス様が命じられたように、ひたすら都にとどまっていたのです。

ルカの記述を見ると、その集まりには…

- (1) **喜び**があり(ルカ24の52)
- (2) **賛美(感謝)**があり(ルカ24の53)
- (3) **祈り**があり(使徒行伝1の14)
- (4) **一致(交わり)**がありました(同上)

初代教会は、この4つの体質の中で誕生し、イエス様が約束されたように、また聖書に約束されていたように、エルサレムから始まって、全世界に福音が広げられてゆきました。

**教会が教会であり続けるために、私たち一人一人に受け継がれるべきものは、この4つです。**改めて、私たちの信仰生活のパロメーターとして心に留めます。私には喜びがあるでしょうか？ 賛美と祈りがあるでしょうか？そして他者を愛する優しさや赦しの心を持っているでしょうか？

もちろん約束を信じて祈っていたわけですから、イエス様の言葉を覚え(旧約聖書を悟る)ことが、4つの土台です。コロナ禍で、「都にとどまり」「絶えず宮にいること」が制限されていますが、この【4+1=聖霊様の注ぎ】につながる原則は変わりません。

また、4+1は、イエス様の死と復活、すなわち、十字架の犠牲の愛に感動し、生きておられる主のご臨在を体験し続けることから生まれます。【**イエス様を見上げること→喜び・賛美・祈り・交わり+み言葉=聖霊様の注ぎ→宣教の拡大**】このシンプルな法則、基本に戻るなら、あとは聖霊様がしてくださいませ！